

# 第二言語習得における前置詞随伴と前置詞残留：補部と付加部の区別による影響

鈴木孝明・岡崎優樹・五軒矢良介(京都産業大学)

Preposition pied-piping and stranding in second language acquisition of English relative clauses:  
the effects of the distinction between complements and adjuncts

Takaaki Suzuki, Yuki Okazaki, Ryosuke Gokenya (Kyoto Sangyo University)

## 目的 Purpose

英語の前置詞随伴 (preposition pied-piping: PP) と前置詞残留 (preposition stranding: PS) に関して、関係節化される要素の補部 (complement) と付加部 (adjunct) による違いが、第二言語習得に影響を与えるのかどうか調査する。

## 英語の関係節 Relative Clauses in English

It is the key for which I was looking. (PP: 補部)

It is the key which I was looking for. (PS: 補部)

I know the park in which John played. (PP: 付加部)

I know the park which John played in. (PS: 付加部)

## PPとPSの難易に関する説明と予測 Predictions

有標性 (markedness) : PP (無標) > PS (有標)

経済性の原理 (economy principles):

PS (more economical) > PP (less economical)

## 先行研究 Previous Studies

- ・フランス語母語話者: PP > PS (Mazurkewich, 1984)
  - ・イヌクティット語母語話者: PS > PP (同上)
  - ・日本語母語話者: PS > PP (Ohba, 2003)
- 全般的には、PSの方がPPよりも早く習得されるという結果 → 経済性の原理を支持

## 実験 Experiment

被験者: 日本語を母語とする大学生の英語学習者14名  
実験文: 4タイプ (4トークン: すべて文法的な文)  
+ ディストラクター16文 (合計32文)

- (1) He is the teacher of whom children are fond. (PP: 補部)
- (2) He is the teacher whom children are fond of. (PS: 補部)
- (3) This is the office in which he works. (PP: 付加部)
- (4) This is the office which he works in. (PS: 付加部)

## 方法 Method

文法性判断テスト: 英文を見てその英文が文法的に正しいかどうか判断し1~5の数字を書いてください。

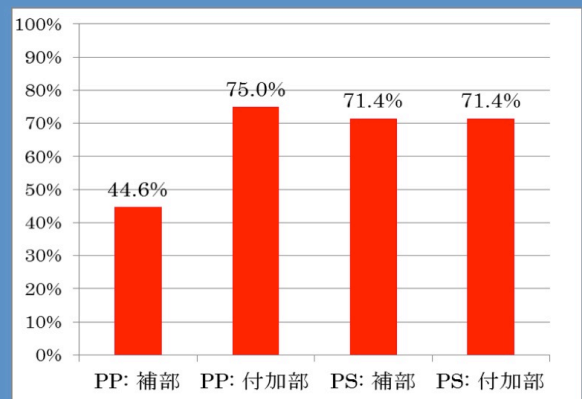
		番号
01	He is the teacher of whom children are fond.	
	1 絶対間違っていると思う	
	2 多分間違っていると思う	
	3 どちらともいえない	
	4 多分正しいと思う	
	5 絶対正しいと思う	

## 結果 Overall Results

平均と標準偏差

	PP	PS
補部	3.09 (0.83)	3.70 (0.52)
付加部	3.66 (0.79)	3.68 (0.82)

## 正解率 Correct Percentages



スケール上の4と5を正解とした場合 (%)

## 結果のまとめ Summary

1. 先行研究と同様にPSの方がPPよりも容易であるという結果が得られた。
2. 全般的には、文法的に正しいという判断が多かった。PSでは補部と付加部による文法性容認度の差はなかったが、PPでは補部の方が付加部よりも文法性容認度が低かった。
3. PPにおける補部と付加部の差は、補部として使用した前置詞句が、「動詞+前置詞」の熟語表現を含むものであったため、動詞と前置詞の隣接性が保たれない表現を学習者が許容しなかったからだと考えられる。